

## 第2号議案 2004年度事業報告に関する件

### 1. 学術集会, 学術講演会等の開催

#### 1) 年次学術集会

日時: 2004年5月27日(木)~5月29日(土), 場所: 名古屋国際会議場. テーマ: 日本麻酔科学会として社会に貢献するために~安全な医療と学際的研究の推進~. 参加者数は, 学術集会が5690名, 一般演題応募総数1097演題のうち1028演題採用であり, 採択率93.7%であった. 大会企画プログラムは会長講演1, 特別講演2, 招請講演13, 学術講演11, シンポジウム8, パネルディスカッション1, ワークショップ14, 日本麻酔科学会賞受賞講演(山村記念賞, 若手研究者奨励賞), 社会保険専門部会企画, 安全委員会企画, 麻酔台帳の説明会, 医学生招待企画, AHA-ACLSプロバイダーコース, リフレッシャーコースを行った.

#### 2) 支部の学術集会

各支部で合計9回の学術集会が開催された.

- ・ 第52回北海道地区学術集会(主催: 森本裕二) 2004年9月18日(土) 北海道大学医学部
- ・ 第61回東北地区学術集会(主催: 小谷直樹) 2004年9月11日(土) 仙台市医師会館
- ・ 第44回関東甲信越・東京支部合同学術集会(主催: 豊岡秀訓) 2004年9月18日(土) つくば国際会議場
- ・ 第95回東海地区学術集会(主催: 竹田 清) 2005年3月12日(土), 13日(日) 名古屋国際会議場
- ・ 第75回北陸地区学術集会(主催: 福田 悟) 2004年9月5日(日) 福井大学医学部附属病院
- ・ 第76回北陸地区学術集会(主催: 福田 悟) 2005年2月20日(日) 福井大学医学部附属病院
- ・ 第50回関西支部学術集会(主催: 古家 仁) 2004年9月4日(土) 大阪国際交流センター
- ・ 第41回中国・四国支部学術集会(主催: 齋藤洋司) 2004年9月4日(土), 5日(日) 米子コンベンションセンター
- ・ 第42回九州支部学術集会(主催: 上村裕一) 2004年9月25日(土) 鹿児島市民文化ホール・南日本新聞社ホール

#### 3) 教育講演の開催

第3回リフレッシャーコースとして2004年5月29日(土)名古屋国際会議場にて開催した. 危機管理, 麻酔の安全, 痛み・ペインクリニック, 循環系, 呼吸器系, 特殊麻酔の5コース3講座で, 参加者数591名, テキスト購入者数216名であった.

### 2. 学会誌その他の刊行物の発行

#### 1) 学会誌

「Journal of Anesthesia」誌を季刊で4号(Vol.18-No.2~Vol.19-No.1)を発行した.

#### 2) 準学会誌

「麻酔」誌を月間で13号(Vol.52-No.4~Vol.53-No.3)を発行した.

#### 3) 学会ニュースレター

社団法人日本麻酔科学会ニュースレターを季刊で4号(Vol.12-No.2~Vol.13-No.1)を発行した.

#### 4) 学術集会抄録およびプログラム

社団法人日本麻酔科学会第52回学術集会抄録集(CD-ROM)およびプログラム号を発行した.

#### 5) 会員名簿および年報

2004年度会員名簿および年報を会員専用ホームページに掲載した.

## 6) 教育講演テキスト

2004年5月29日開催の第4回リフレッシャーコーステキストを発行した。

## 3. 学会認定医等の認定

### 1) 認定医等の新規認定，資格試験の実施

#### <新規認定医>

2004年度は，標榜医の審査時期にあわせて，2004年4月・7月・10月・2005年1月の計4回認定審査を行い，2004年度新規認定認定医審査合格者数は311名となった。

第1回申請者：67名	合格者：64名(2004年4月1日認定)
第2回申請者：81名	合格者：81名(2004年7月1日認定)
第3回申請者：81名	合格者：80名(2004年10月1日認定)
第4回申請者：87名	合格者：86名(2005年1月1日認定)

#### <新規専門医>

2004年10月1日・2日，神戸ポートピアホテルにて第43回麻酔科専門医認定試験が実施された。2004年度新規認定専門医試験合格者数は254名となった。

旧制度口頭・実技試験	受験者数：188名	合格者：179名	合格率：95.2%
新制度3科目(筆記・口頭・実技)	受験者数：94名	合格者：75名	合格率：79.8%
合計	受験者数：282名	合格者：254名	合格率：90.1%
新制度筆記試験のみ	受験者数：2名	合格者：1名	

#### <新規認定病院>

2004年度は，申請状況に応じて4回認定審査を行い，2004年度新規認定病院数は121施設となった。

第1回申請施設：32施設	合格施設：32施設
第2回申請施設：49施設	合格施設：47施設
第3回申請施設：30施設	合格施設：27施設
第4回申請施設：15施設	合格施設：15施設

### 2) 認定医等の資格更新審査

2005年1月26日，事務局にて2005年4月1日麻酔科専門医更新予定者，また2005年1月24日麻酔科認定病院更新予定施設の審査会が開催された。2005年4月1日麻酔科専門医更新予定者は194名となった。

専門医更新申請者：213名	認定者：189名
特例申請者：26名	
不認定者：3名	
辞退者：21名	

指導医不合格者による専門医更新者：5名 認定者：5名

2005年4月1日麻酔科認定病院更新予定施設は58施設であり，58施設の認定となった。

## 4. 研究の奨励及び研究業績の表彰

社団法人日本麻酔科学会学会賞3賞(山村記念賞・青洲賞・若手奨励賞・社会賞)の2004年度受賞予定者の選考を行い，以下のとおり決定した。

#### 1) 山村記念賞

萩平 哲 (大阪大学大学院医学系研究科)

”Significance of EGG Bicoherence during Anesthesia”

#### 2) 青洲賞

田中 敦子 (千葉大学大学院医学研究院麻酔学領域)

「周術期における上気道の維持，防御機構における臨床的研究」

#### 3) 若手奨励賞

(基礎)

河野 崇 (徳島大学医学部附属病院麻酔科)

”Molecular mechanisms of the inhibitory effects of propofol and fliamylal on sarcolemmal adenosine triphosphate-sensitive potassium channels”

(臨床)

境 徹也 (長崎大学医学部麻酔学教室)

「経皮的リドカインによる分離神経遮断の作用特性」

#### 4) 社会賞

塚田 修 (上田腎臓クリニック) および株式会社ディヴィンターナショナル

「バルーン付き薬物持続注入器開発」

### 5. 研究及び調査の実施

#### 1) 麻酔関連偶発症例調査

麻酔科認定病院960施設を対象に行い，876施設から回答があり，回答率91.0%であった。

麻酔関連偶発症例調査 2002 の解析発表完了．麻酔関連偶発症例調査 2003 の一部の解析結果発表．麻酔台帳による麻酔偶発症例調査 2004 の配布，実施．麻酔台帳 2005 の作成と配布．「術前合併症としての出血性ショック」，「手術が原因の大出血」が原因による偶発症に関する追加調査 2004 の実施と麻酔誌発表を行った．麻酔関連薬剤の投与に関するインシデント調査 2005 麻酔関連偶発症例調査 2004 および「術前合併症としての出血性ショック」，麻酔関連薬剤の投与に関するインシデント調査 2005 を実施した．

#### 2) 麻酔関連機器故障情報調査

麻酔関連機器で故障が発生した場合，あるいは規格そのものに問題がある機器に関して常時窓口を設け，ホームページを通じて常に情報を収集し，即時にフィードバックした．

#### 3) 麻酔関連機器 JIS 規格に関する検討

2004 年度は，「DRAFT INTERNATIONAL STANDARD ISO/DIS 9919 Medical electrical equipment Particular requirements for the basic safety and essential performance of pulse oximeter equipment for medical use」(医用電気機器 - パルスオキシメータ機器の基本的な安全性及び必須の

性能に関する個別要求事項)の翻訳を行った。

「ISO 21647:2004 Medical electrical equipment -- Particular requirements for the basic safety and essential performance of respiratory gas monitors (医用電気機器 - 呼吸ガスモニタの基本的安全性及び必須性能に関する特殊要求事項)」を翻訳中である。

#### 4) 麻酔薬および関連薬品等の適正使用に関するガイドライン作成

昨年発行したガイドラインの改訂作業を行い、会員からのアンケート調査を元に新たに適正使用とすべき薬剤などを加えた改訂第2版を発行、それに伴い塩酸モルヒネ(2004年12月7日付けで厚生労働省から保険適用承認)、クエン酸フェンタニル(保険適用承認後、改定要望を行った添付文書は全面改訂)、エフェドリン(保険適用に向けて使用実態アンケートを実施)薬剤の保険適用を要望した。また、薬剤管理と乱用の防止のため、2000年12月に行った薬剤管理に関するアンケートを再度行い、現在との管理状況を比較調査した。その他、ASA薬物中毒ガイドラインをダイジェスト化し認定病院へ送付する予定。また乱用者の回復に向けた対応を検討した。

#### 5) Closed Claims Studyの推進と研究

学会が団体契約する医師賠償責任保険の請負会社である損保ジャパン社の協力のもと、過去30年にさかのぼって、会員が関連している麻酔関連医療事故について、事故発生のタイミングやヒューマンエラーの要因などの項目別に調査し、報告書を提出した。

#### 6) 肺塞栓症、肺血栓症に関する調査の実施

わが国における肺塞栓症、肺血栓症の発生状況、予防法、治療法等に関して現状を把握するために、日本麻酔科学会認定病院862施設において、2003年度の周術期肺血栓症(以下PTE)に関するアンケート調査を行った。結果として、503施設から返信(58.4%)、そのうちの229施設(45.5%)で440例の周術期PTE発症を認めた。発症率は母集団を229施設の全手術件数(1,461,154例)とすると、 $440/1,461,154 = 30.1/10$ 万、母集団を229施設の麻酔科管理症例数(923,587例)とすると $440/923,587 = 47.6/10$ 万の発生率となった。この結果を麻酔科学会ホームページに掲載した。

#### 7) 麻酔科女性医師のライフスタイルおよびプランに関する実態調査について

麻酔科医マンパワー不足に関する提言女性医師復帰のための環境作りの検討のため女性医師の実態調査を行った。女性医師のライフスタイルやライフプランの実態を把握し、サポートする策を考える予定である。この調査によって、具体的な勤務時間や勤務体系、育児への取り組み、職場や行政からの支援体制などを明らかにした上で、出産→育児→復帰までの教育支援プログラムを作成し、関係機関へ働きかけていく予定である。

#### 8) 国際海外協力の実態調査について

各施設の現在までの国際協力活動について調査し、今後の国際協力活動の参考とした。

## 6. 関連学術団体との連絡及び協力

### 1) 登録・派遣

日本学術会議,日本医師会,日本医学会,厚生労働省医道審議会標榜医審査会,有限責任中間法人日本専門医認定機構,大学評価・学位授与機構,日本外科学会,外科系医学会社会保険委員会連合,救急医療財団,日本蘇生協議会,3学会合同呼吸療法士認定委員会,臨床工学関連問題検討委員会,医療機能評価機構,

骨髄移植推進財団等に委員を派遣し、各々の目的と事業に合わせ連携・協力を深めた。

## 2) 各種学術集会協賛・後援

日本学術会議シンポジウム、日本臨床麻酔学会市民公開講座、社団法人日本ME学会ME技術講習会・検定、財団法人日本救急医療財団「救急の日2004」等、バイオメディカルファジィシステム学会学術集会等、関連協力団体の学術集会および講習会、市民公開講座等を協賛・後援した。

## 7. 国際的な研究協力の推進

### 1) 世界麻酔学会

世界麻酔学会理事および各種委員会委員を派遣している。2012年WCAの誘致に向け2年10ヶ月に渡り誘致活動を行ってきたが、誘致は不成功に終わり、2012年の開催地はアルゼンチンとなった。この誘致活動に関する総括を行った。

### 2) アジア・オーストラレイシア麻酔学会

会計理事を派遣している。一昨年に決定した、2010年日本大会にむけて、AACA2010実行委員会(澄川実行委員長)を設置し、組織図・役割分担を決定した。

### 3) 日韓シンポジウム

日韓シンポジウムに関しては、中止することとし、2006年秋に韓国側が企画しているシンポジウムを最後とすることとした。今後は、対象国をアジア各国に拡大しアジアシンポジウムとすることとした。

## 8. 普及啓発活動

市民公開講座を10回開催し、正しい麻酔科学と医療の普及啓発を行った。

### 1) 「麻酔の日2004」

市民公開講座「身近な麻酔」を10月16日、17日の2日間にわたって大阪ビジネスパークにて開催した。臨床麻酔学会が大阪で「華岡青洲200年記念事業」を開催したため、東京から大阪へ会場を移動し合同で開催した。麻酔科医の役割、麻酔の歴史、当学会の活動内容を説明したパネルの展示、アナウンサーの小川千鶴子氏を司会として招き手術時の麻酔の様子を麻酔科医とともに解説する「オペステージ」、ドラマ仕立ての「蘇生体験」および「蘇生実習」を行った。一般市民からの麻酔関連の質問に麻酔科医が答える「麻酔の相談窓口」の4つの企画に絞り実施をした。参加者数は4500名を超えた。

### 2) 各支部学術集会開催時

各支部学術集会開催時、「麻酔」をテーマに計9回の市民公開講座が開催された。

## 9. その他目的を達成するために必要な事業

各種委員会活動を通じて事業目的を達成した。各委員会とも事業内容によって、実務を執行する専門部会を組織し、積極的な事業展開に努めた。詳細は各委員会議事録を参照。

### 1) 総務委員会

本年度は昨年に引き続き、昨年度行った麻酔科医のマンパワーアンケートを元に「麻酔科医マンパワー不足に関する提言」の作成、中長期計画作成を主な業務として活動した。「麻酔科医マンパワー不足に関する提言」作成後は、マンパワーの問題を中心に厚生労働省、日本医師会、日本病院会、新聞

社，衆議院議員等と折衝を行った．昨年度からの課題である中期・長期計画の作成に向けたマニュアルの検討や実務ワーキンググループの組織などを行った．その他，2003年11月の文部科学省実地審査の指導に基づいた会則の一部変更および懲罰規定原案作成，副会長選挙，支部事業運営および会計方法などの統一化等，学会内部の総務にかかわる事項も審議・執行した．

将来構想検討専門部会では，マンパワーアンケート調査結果の発表，また，医師の労働者派遣の実態調査，麻酔科女性医師のライフスタイルおよびプランに関する実態調査をおこなった．

社会保険専門部会では，平成18年度の診療報酬改訂に向けて改訂案を作成した．改定案は，従来通りの方式で専門性を重視し，今年度調査した米国のRelative Value Guide(RVG)を参考にしたものとなった．その他の活動は，本年度外保連診療報酬要望書を作成し，改正の要望として麻酔科専門医による麻酔を患者リスク麻酔法による加算を申請，新規の要望として，手術後疼痛管理料，内視鏡下硬膜外癒着剥離術，人工肺を用いないOFF Pump手術を申請した．材料の要望は，人工鼻を申請した．診療報酬に関するシンポジウム，相談ブースの開催，診療報酬に関する質問への回答をホームページ等で行った．昨年度に引き続き第52回学術集会時に保険診療上の説明，相談についてブース企画を立案．

## 2) 財務委員会

予算・決算に関する事項，資産の管理・運営に関する事項，各種事業費に関する事項，その他財務に関する事項について協議，答申，執行した

- ・ 予算書・決算書の作成
- ・ 貸借対照表・財産目録・正味財産増減計算書の作成
- ・ 事業費・管理費のバランスのチェック
- ・ 支部会収支計算書と事業報告のチェック
- ・ 基金・引当金の設定と管理
  - ：学会賞基金，認定事業基金，学術事業基金，安全事業基金
  - ：文部科学省実地審査指導に基づく会計方式の支部への徹底

## 3) 学術委員会

機関誌の編集・発行に関する事項，麻酔科学用語に関する事項，学術集会の運営に関する事項，学会賞に関する事項等を中心課題として協議，答申，執行を行った．

- ・ 機関誌 Journal of Anesthesia 誌を編集，発行した．学術集会プログラム集の検討，第53回学術集会から継続事業となるJAシンポジウムのテーマスケジュール，機関誌目次の自動配信の検討，更なる内容の充実と国際化，Advisory Board Memberの大幅な増強，Guide for Authorsの大幅な改定，On-line閲覧法の充実をはかった．
- ・ 学会賞に関して，資格，基準，応募日程と応募方法を再検討して会員に告示した．応募者を審査し受賞者候補を理事会に答申した．今年度は，優れた臨床研究に対して授与される「青洲賞」を決定した．
- ・ 2006年度学術集会開催にむけ，学会事務局（東京）と学術集会事務局（担当校）の運営申し合わせ事項について再確認した．演題登録，プログラム集の査読員・座長の選定，査読採点表，プログラムについてのアンケートを行った．電子抄録ソフト作成については，電子抄録開発業者を選定し，抄録作成を進めた．

## 4) 倫理委員会

麻酔科関連領域の医学・医療の倫理に関する事項を検討した．

- ・ 異状死の取り扱い，診療行為に関連した死亡・傷害についての検討
- ・ 武田総合病院の不祥事，済生会宇都宮病院医師による麻薬取締法違反事件に関する調査について，倫理特別審議会を結成し，会員への懲罰も含めて審議を行った．
- ・ 症例報告に関する患者プライバシー保護に関する指針の検討

#### 5) 教育委員会

2004年度は認定制度の実施に纏わる質問への回答および会則の変更，第3回リフレッシュコースの実施および代4回リフレッシュコースの立案等を行った．

認定審査専門部会では，第43回麻酔科専門医試験を実施した．問題作成にあたっては，一昨年データベース化された過去問題のブラッシュアップを行った．

第2回リフレッシュコース（第51回学術集会開催時：2004年5月29日）の運営および第3回リフレッシュコース（第52回学術集会開催時：2005年6月4日）の企画・広報，テキスト作成を行った．

#### 6) 安全委員会

麻酔関連のリスクマネジメントに関する事項について協議，答申，執行した．また多角的な安全事業を展開していくために，合同部会を開催し部会間での意思疎通を図り，積極的な意見を交換していくこととなった．

手術室安全対策部会は，麻酔関連機器の故障情報をホームページに掲載し，周知徹底をおこなった．偶発症例調査専門部会は，「偶発症例調査2004」，「術前合併症としての出血性ショック・手術が原因の大出血に関する追加調査2004」の実施と麻酔誌発表，偶発症例調査2003の解析，「麻酔偶発症例調査2002」および「麻酔関連偶発症例調査1999～2002」，「麻酔関連薬剤の投与に関連する危機的偶発症：調査1999～2002より」の麻酔誌発表，偶発症例調査広報パンフレット・パネルの作成，麻酔台帳2005の作成と配布，第51回学術集会時における麻酔台帳ブースの開設，偶発症例調査のホームページブースの開設，「麻酔関連薬剤の投与防止に向けて」シンポジウム企画を行った．

麻酔関連機器 JIS 規格専門部会では麻酔関連器機の JIS 規格翻訳作業を行った．

医療事故専門部会では，CCS 事業を多角的に展開した．インシデントレポートの収集損保ジャパンの協力による過去 30 年間の会員による医療事故の調査，報告書の作成，2004 年度医療事故審査会の開催を行った．

薬剤対策専門部会は，医薬品ガイドライン改訂第2版発行，薬剤の保険適用要望として，塩酸モルヒネ，クエン酸フェentanil，エフェドリンを行った．また薬剤管理と乱用防止のため，2000年12月に行った薬剤管理に関するアンケートを再度行い，現在との管理状況を比較調査した．その他，ASA 薬物中毒ガイドラインをダイジェスト化し認定病院へ送付した．また，乱用者の回復に向けた対応を検討した．

その他，ワーキンググループとして，肺血栓塞栓症研究ワーキンググループ，医療事故防止に対する具体的な方策の提案ワーキンググループ，テーマごとに特化した実務チームを結成して各事業を推進した．

#### 7) 交流委員会

国内外の諸団体との交流を促進する目的に沿って事業を行った．国際交流専門部会においては，2012年WCAの誘致活動として，横浜を候補地としてさまざまな活動を行ってきた．しかし，今年度

に開催されたWCAパリ大会における選考で誘致は不成功に終わり、これまでの誘致活動の総括を行った。日韓シンポジウムに関しては、2010AACA開催にむけて今後は韓国も包括したアジアン・シンポジウムの開催を目指す。

救急医療対策専門部会においては、第51回学術集会時にAHA公認のACLSプロバイダーコースを2日間に渡り開催し、インストラクター16名、受講者30名であった。インストラクター、受講生ともに証明書を発行した。また、各支部でACLS講習会を実施した。

#### 8) 広報委員会

一般市民に対する広報活動としての継続した市民講座の開催、ニュースレターの編集・発行に関する事項、ホームページの運営等に関わる事項等の協議、答申、執行を行った。

公益事業推進専門部会では、市民公開講座「麻酔の日2004」を企画・運営し、10月16日～17日、大阪ビジネスパークにて開催した。臨床麻酔学会が大阪で「華岡青洲200年記念事業」を開催したため、東京から大阪へ会場を移動し合同で開催した。一般市民約4,500名が参加した。

ホームページ管理専門部会では、現在のホームページは完成度が高く、特段の活動はなかった。今後は、広報委員会に対応することとなった。会員に対しては日本麻酔科学会の概要、定款、理事名簿、緊急報告事項、各種募集、他の機関・学会からの通知を含めた学会内部に関わる情報をより迅速に、即時性を主眼に提供をできるようにした。

ニュースレター編集専門部会では、年間4回の「ニュースレター」の編集と発行を行った。

発行した「ニュースレター」は第11巻2号から12巻1号である。経費削減および情報の即時性をめざし、従来の業者による校正・印刷ではなくタブロイド版の独自発行について検討した。

その他、ワーキンググループとして、学生招待企画ワーキンググループ、麻酔啓発用小冊子ワーキンググループなど、テーマごとに特化した実務チームを結成して各事業を推進した。

以 上